

安曇野民報ほりがね

うすい 泰彦通信



3月議会

一般質問

「あづみん」とともに 巡回バスの運行を！

白井議員は、一昨年の当選後、度等についても質してきました。定例会の一般質問で毎回公共交通に関わる質問をし、予約を取りやすくする工夫や利用者が要望を伝えやすい工夫、待ち時間の短縮、乗り継ぎ料金の不当性、料金の値下げ、運行間隔の短縮、運行時間の延長、土・日の運行等「あづみん」の利便性向上とともに、巡回バスの運行、タクシー料金割引制

白井議員は、一昨年の当選後、度等についても質してきました。定例会の一般質問で毎回公共交通に関わる質問をし、予約を取りやすくする工夫や利用者が要望を伝えやすい工夫、待ち時間の短縮、乗り継ぎ料金の不当性、料金の値下げ、運行間隔の短縮、運行時間の延長、土・日の運行等「あづみん」の利便性向上とともに、巡回バスの運行、タクシー料金割引制

巡回バスを！ この市民の声に どう応えるか

白井 あづみんの利便性向上とともに、定時定路線の巡回バスに対する市民の要求がある。

（「あづみん」に家まで来てもらわなくても）停留所まで歩けるといえる人。巡回バスを利用できる障害者や小学生。車を手放したい、高齢で運転が不安な人や車の維持費が負担と感じている人。家族などに送り迎えをし

てもらうより巡回バスがありがたいという人。このように定時定路線の巡回バスがあれば使いたい、安心して生活できたい、うれしいという人は大勢いる。巡回バスが実際に通れば、利用者も増えると考えられる。このような市民の声をどう考えるか。

高齢者の通院、買い物、学生の通学のほかに、仲間との交流や外食、娯楽のためにも利用できる巡回バスの本格的な運行の検討に入るべきと考えられるが、いかがか。

※合併後の検討結果に留まったままで、交通会議兼協議会での研究は遅々としている。

市長 合併後の公共交通の検討において、デマンドタクシーを全市に広げることになった。市民のが乗りやすいように路線を引く工夫をしたのが「あづみん」と考える。市域公共交通会議兼協議会において、定時定路線の延伸、拡充、巡回バスなどの実現性の研究も継続していきたい。



市内全域をカバーした 定時定路線・巡回バスを！

白井 安曇野市では、立

地適性化計画で「公共交通を整備、充実させていくことが求められている」としているが、「高齢者の通院、買い物、学生の通学を第一に考え、通院、買い物はあづみんを中心に市内の移動を確保する」「通学についてはJRの利用を想定して、駅までの移動の確保を検討する」「定時定路線は現状の路線を維持拡充する」と限定している。

池田町では、町営バスが町内全域をカバーし、生坂村、明科駅や穂高駅まで入っている。「町民が利用しやすい運行形態を追求」を基本に、「交通弱者対策について、福祉施策も含め関係機関で広域的に検討」「1つに利便性向上のための運行時刻改正、経路設定、鉄道運行に合わせた運行時刻改正、病院受診や買い物に配慮した経路設定、

2つに、割引回数券発行、定期券購入については交通弱者及び通学者への支援制度を継続」としている。

大町市でも、市内全域を路線バス・巡回バスが走っている。基本方針1「交通空白地帯、バス停までの距離が遠くバスが利用できないことを解消。市民にとって暮らしやすい公共交通体系の構築」、基本方針2「移動しやすいダイヤの編成、ルートの設定、効率的な運行。訪れる人にとって利用しやすい公共交通体系の構築」、基本方針3「暮らしを支える、利便性の高い公共交通の維持。地域の実情に応じた無理のない交通体系を構築。自動車依存型社会からの脱却」としている。

塩尻市でも、市内全域を路線バス・巡回バスが走っている。「バスの1台当たりの乗車人数の目

標を2016年13・4人から2020年13・5人に0・1人増やすと設定。日常生活に必要な電車、バスの交通網が整備され

安曇野市と近隣自治体の公共交通の比較

近隣自治体	人口(人) A 2018年 4月1日現在	定時路線数 (内巡回線) 1日の便数	運賃(円)	年間延利用者 数(人) B 2017年度 人口比B/A	公共交通事業費決算 2017年度 (千円) C	一般会計 歳出決算額 2017年度 (千円) D	公共交通事業費の 対歳出決算額 C/D %
安曇野市	98,073 (本市を100とする)	3路線10.5便 デマンドを含めて74便	200 高校以下100 デマンド300	85,123 0.87	83,215	40,427,794	0.21
池田町	9,980 (10)	7路線(2) 40便	町内150 町外300	58,156 5.83	47,943	5,242,333	0.91
大町市	27,803 (28)	11路線(2) 44便	200 子ども100	76,479 2.75	96,451	18,954,619	0.51
塩尻市	67,449 (69)	11路線(3) 38便	100	149,551 2.22	97,392	26,504,467	0.37

*便数は、往復で1便と考え、巡回は回った数を便数とする。

「高齢者等交通弱者及び市外からの来訪者に対して、公共交通確保維持を図る」「利便性の高いバスの運行、ダイヤ改正の実施」としている。

政策部長 各自自治体の実情に合わせた運行形態が図られていると思う。

安曇野市は、路線バスではなくデマンド交通がニーズにあっていたと考える。「あづみん」は交通空白地帯がない。利用者が特定できるので、各

近隣1町2市の交通施策をどう評価するか。

安曇野市は、路線バスではなくデマンド交通がニーズにあっていたと考える。「あづみん」は交通空白地帯がない。利用者が特定できるので、各

予算を増やして、利用者増を！

白井 財政面から公共交通事業費を近隣自治体と比べてみた。(上表*太字部分から安曇野市がいかに少ない予算で少ない利用者となっているかわかる)安曇野市がその気になれば、予算を捻出し、定時定路線の巡回バスの運行を実施できないはずはないと考えるが。

政策部長 それぞれの自治体の行財政構造を検証してない。地域公共交通網形成計画では持続可能な公共交通を構築するため、行政の支出を抑える必要があるとしている。

白井 全地域をカバーして、来訪者も含め広く市民の足を確保する点が安曇野市と近隣の3市町との違いである。これが解決できなければ、市民の足がますます確保されにくくなる。

10%増税で
経済に破滅的影響

実質家計消費支出は８％増税前の２０１３年より２５万円も下回り、実質賃金も同時期で１０万円下回っている。「（家計消費は）１３年平均の上に出ていない、というのは事実だ」（２月１２日安倍首相）

政府の月例経済報告でも、3月の基調判断では「緩やかに回復」という表現を維持しつつ、「輸出や生産の一部に弱さ」と3年ぶりに下方修正しました。

経済界からも強い懸念や反対の声が聞かれます。「上げたら間違ひなく消費は冷え込む」（鈴木敏文セブン&アイHD名誉顧問）

「消費税増税に反対」
（P・クルーグマン）
ノーベル賞受賞経済学者）。「増税すれば消費税と税収は縮小する」（藤井聡元内閣官房参与）。「引き上げが経済・物価に下押しの影響を与えるリスクは相応に」（日銀政策決定会合で政策委員）。「増税には反対」（竹中平蔵小泉内閣総務大臣）

「消費税は社会保障のため」は
ウソ

消費税3%導入直後の90年度の国の税収は、60・1兆円、税率が8%の18年度は59・9兆円とほぼ同水準。消費税分はどこへ？ 89年導入の消費税収入は、18年度までの30年間で累計**372兆円**。同じ期間に法人税は税率引き下げにより**290兆円**減り、大企業優遇税制（大企業の利用がほとんどの研究開発減税は04年度以降急増等）。富裕層に關わる相続税の最高税率は02年より15%減、所得税・住民税の最高税率も98年より10%も減。つまり**消費税が法人税減税や富裕層減税に使われてきたのです**。社会保障の自然増も毎年削られ、この6年間では3・9兆円も削減。

消費税に代わる 財源はある！

まず、この間の税源の
流れを戻します。
日本共産党の提案
当面の財源 17 兆円 (①～⑥の計)

- ①大企業優遇税制（研究開発減税等）を見直す **4・0兆円**
- ②資本金1億円超の大企業の法人実効税率を29・74％から37％（安倍政権以前の水準）に引き上げる **2・0兆円**
- ③富裕税の創設。5億円超の純資産に課税。相続税の最高税率を55％から02年以前の70％に戻す **1・1兆円**
- ④所得税・住民税の最高税率を現行55％から98年の65％に戻す **1・9兆円**
- ⑤株式配当の総合課税制の強化 **1・2兆円**
- ⑥その他⑦大型公共事業・軍事費・原発推進などの浪費の一掃⑧厚生年金・健康保険などの保険料の上限引き上げ⑨為替取引税・環境税など **6・8兆円**

消費税増税特集

3月市議会では、消費税増税関連の予算案、条例案等が審議されました。日本共産党市議団ニュース43号(4月20日発行)参照

問題だらけの消費税の使い道、増税対策

幼児教育の無償化 既に
 保育料が免除されている
 世帯には恩恵がなく、税
 負担だけがのしかかる。
給付型奨学金 対象者
 は、学生の1割。9割は
 貸与奨学金で借金を背負
 うか、アルバイト頼みの
 生活苦。学費値下げを！
プレミアム付き商品券
 低所得者と2歳以下子ど
 も世帯だけが購入可。使
 い切ったら消費税負担が
複雑な税率 買うもの

（食料品か否か）買う場所（中小小売か大手か）買い方（キャッシュレスか現金か）で異なり、混乱。中小小売店を苦しめるポイント還元 予算はたつたの1800億円。9か月限定。カード会社への重い手数料負担（売り上

社会保障の後退 今年度

の公的年金の支給額は実質0・5%の削減。75歳以上の低所得者の医療保険料軽減措置は10月に廃止。要介護1～2の人は生活援助保険給付を外され、介護離職にいつそうの拍車が。



子ども・子育て支援法改正案 ♡ 保育料「無償化」♡ でも 消費税増税が前提

改正案の内容

0～2歳児…住民税非課税世帯のみ、認可保育所・認定子ども園(以下園)の保育料が無料に。認可外園の場合月額42,000円上限の助成

3～5歳児…認可、認可外とも月額37,000円上限の助成。ただし、給食費や実費徴収される行事費などは対象外

問題点
◆消費税増税が前提◆
既に保育料が免除の住民税非課税のひとり親世帯などには恩恵はなく、増税分が新たにのしかかる◆直ぐにやるべき待機児童解消である認可保育所の開設と保育士の抜本的処遇改善は後景へ◆「待機児童問題によりやむをえない」として、基準以

下でも5年間は無償化対象の施設は、基準も「安全確保の観点」程度で、本来の基準「子どもの育ちを豊かにするもの」から離れかねない。◆認可外保育施設の4割が基準を満たさず、立ち入り調査は68%、無償化によって調査対象は1.7倍になるという実態から、指導監督体制の強化なしに安心・安全な保育は保証できない。◆実績や信頼のある認可外保育施設では、入園者減少の心配も。



国が進める 高齢者と現役世代の負担増

今、**社会保障費の削減**を狙って、盛んに「高齢者VS現役世代」の世代間対立があおられています。“高齢者のために現役世代が重い負担をしている”と言って。残念ながら安曇野市議会でもこの言い方が聞かれます。

国はこの間、**高齢者医療への国庫負担を抑制**する一方、**現役世代に支援金の負担増**を転嫁してきました。その結果、後期高齢者医療制度の財源の4割は、現役世代が医療保険料から負担する支援金で賄われるようになってい

ています。さらに、健保組合などには、特定健診(メタボ健診)の“成績”に応じて支援金を増減させる仕組みも設けています。

このように国は、自ら現役世代の負担増を進めながら、“現役世代は過重負担だ”と言って、**75歳以上の患者の窓口負担の引き上げ**を狙っています。高齢者と若者の対立をあおり、全世代に負担を押し付ける社会保障の改悪を強行しようとしているのです。

[赤旗5月1日付参考]

給食の自校方式を 続けてほしい！

市民の声

前号の通信以来たくさんの方から思いや意見を伝えていただきました。堀金地域にお住まいの方の一部を紹介します。

○子どもが給食がおいしかった話をいつもしてくれて、子どもは幸せだ。

○給食試食会があると、おいしいからと子どもが申し込みを勧めてくれる

○自分も自校給食で育ったので当たり前と思ってい

ら、市内では堀金小学

校だけなんです。校外の出身ですが、小学生の時、学校の帰り道でたまに給食のおばちゃんと一緒に帰ってくるのがあって、いろんな話をした思い出がある。

○給食に出たおいしいメニューを家でも作ってほしいと言われる。

○子どもの時はセンターの給食だったが、おいしいと思ったことはない。

自分の子どもが給食をおいしいと言って話してくれるのでうれしい。

○いつも給食を作っている人や作っているところが見られて、いいと思う。

○自校方式だから、作っている人に「いただきます」や「ごちそうさまでした」を言えるんですね。



安曇野市教育委員会主催 学校給食センター市民説明会

堀金学校給食センターの廃止の計画が出されています。子どもの給食・食育に直接かかわる問題です。ぜひ多くの市民に参加していただきたいと思います。

5月18日(土)	午前10時～12時	豊科公民館
5月19日(日)	午前10時～12時	堀金総合体育館
5月21日(火)	午前10時～12時	豊科公民館
	午後7時～9時	堀金総合体育館
5月22日(水)	午前10時～12時	堀金総合体育館
	午後7時～9時	堀金総合体育館

※託児所を開設します。[広報あづみのNo.290 4月17日発行より]